

## 研修参加報告書

(会派：市民クラブ)

### <研修目的>

議員の権利である「議会一般質問」の内容・精度を更に向上させるため、元副市長である講師の研修に参加して自己研鑽を図る。

### <研修内容>

研修月日	研修テーマ	講師
2/14	○役所を動かす質問の仕方	元 廿日市市副市長 川本 達志 氏

\*市町村議会議員研修参加者：40名

### <研修概要>

講師の川本氏は、広島県庁において公務員労務や行財政指導、契約法務などに従事された後、広島県廿日市市の分権政策部長を経て副市長に就任された。県議会・市議会を通して、一般質問のあり方や考え方、質問の方法などを執行部から見た目線で解説された。特に「良い質問の絶対3要件」や「政策提言型の質問の組立て方」などを詳しく解説された。

#### <所感①> 澤田 秀夫

講師は元副市長という経歴をもっておられ、執行部側から見た議員の一般質問に対するの良い点、悪い点などを詳しく解説され、今までの自分の一般質問を見直す機会と今後の一般質問をするうえで参考になった。

一般質問の運び方や内容、組立て方など、今まで「見よう見真似」でやってきたが執行部側からすればどう見えているのかある程度理解できた。

今回の研修で学んだ「現状認識・課題認識・仮説・検証・提案」のプロセスを重点に置き、今後の安来市のまちづくりに有効な一般質問に心掛けていきたい。

#### <考察②> 原瀬 清正

自治体経営コンサルタントの「川本達志」講師より「私がうなった質問はこれだ」と題しての研修を受講した。元副市長というご経歴もお持ちであることから、執行部と如何に共有認識をして役所内マネジメントサイクルに乗せていくことができるか、そのためにも政策提案型質問の構造をよく理解しておく必要があるとの実践的なお話

と事例を交えての解説はたいへん参考になった。

今後もより多くの市民の皆さんとの対話を重視し、3つの絶対要件とされていた①現状認識が正確で共有できる。②課題認識が時宜を得て共感できる。③仮説（提案）が十分検証されている。を念頭に置いた一般質問ができるように取り組みたい。

#### <考察③> 岡本早智雄

議員として、本当の意味での議会質問の在り方について学べたと思う。ただ単に数字を尋ねたり、一方的な意見の言い切りでは、質問をしても何も変わらないということがよくわかった。

どんなに良い質問をしても、執行部側が「その時だけしのげば良い」と思わせないために、次につなげるための質問を行なうことが重要な事、また、独りよがりな質問にならないために、そこに市民の皆さんからの共感を得るための努力もしっかりして、その質問の重さや妥当性をどう作っていくかが重要であるという事も納得できた。

安来市議会においても、通告からたった十日間ばかりで「具体的な解決策」が打ち出せるのであれば、解決していない問題は無いはずであるが、実際はそうっていない。現状認識と課題の共有化、そして課題解決する際のゴールの姿、また、そのゴールを目指すための道筋や方法など、とても一回の質問に収まらないものとする。場合によっては、市民の皆さんとの合意形成を図っていくための努力やそのための時間も必要になると思われる。

したがって、重要な課題であればあるほど、公な議会の場において、一つずつ、順を追って解決するために質問を進めていく必要があるのではないかと考える。今後はそういった形がとれるようにしていきたいと思う。